

地域の自治会から頼まれ町内パソコン教室の講師を引き受けて三年がすぎた。

当初、老若男女二十人位が集まったが、大半がパソコン初心者で中にはパソコンを持っていない冷かしや、さあ教えろと言わんばかりの高圧的な人など種々雑多、大変だった。

その中で、八十歳をこえた男性が、最新型のピッカピカのノートパソコンを持って来たのにはびっくり。聞くと、一人暮らしでやることがなく、呆け防止のためにパソコンを習いたい、孫に頼んで買ってもらったという。感動した。どげんかせんといかん。

しかし、昔ワープロの経験があるというが、年が年だけに一本指でノロノロ。キー入力をマスターするだけでもいつになるかわからない。そこで基礎はあきらめ、いきなりパソコンにインストールされているソフトの「筆ぐるめ」を使って年賀状作りから入った。ソフトの指示通り入力していけば簡単に出来るはずだが、なかなか簡単にはいかない。その時はわかったつもりでもすぐ忘れる。手取り足取り、行きつ戻りつ、なんとか半年ほどかかって年賀状が完成した。決してマスターしたわけではないが、それでもとても嬉しそうだった。

その後、年が明けると教室に顔を見せなくなった。年賀状で満足したのか、挫折したのか。町で顔を合わせると、バツが悪そうにニヤニヤしてる。そういえば、レッスンの二時間はとてもキツそうだった。もっと簡単に考えていたのかも知れない。

そのうち忘れた頃に、ひょっこり戻ってきた。目的は年賀状だった。もうその時期になっていた。作り方はすっかり置いてきている。また一から年賀状作りが始まった。その後も毎年その時期になると教室に顔を出すパターンが続いている。

それにしても、あの最新型の機能満載、ソフト満載のパソコンがあまりにもったいない。なんとかしたいが、本人がそれで満足しているので良しとするしかないが、まあ呆け防止には十分になっているはずだ。

このように、いろいろな人と付き合いながら教室は続いている。中には、かなりマスターした人もいて感謝されている。メンバーは当初の半分以上になったが、時々パソコンそっちのけでコミュニケーションの場にもなっている。おかげで町内の人との人間関係がすっかり出来上った。大変だが自分の為にもなっている。

そんなパソコンに感謝・感謝。